

立命館大学アート・リサーチセンター
 文部科学省 共同利用・共同研究拠点「日本文化資源デジタル・アーカイブ研究拠点」
 2018 年度 共同研究成果報告書〔研究費配分型〕

2019 年 7 月 1 日 提出

1. 研究課題名	
ARC データベースを利用した博物館アーカイブスの整理および情報公開に関する研究 (英文標記: _____)	
2. 研究代表者	
氏名(ふりがな)	所属機関・職名
Timothy Clark (ティモシー・クラーク)	Head of the Japanese Section, Dept. of Asia, British Museum
3. 研究分担者 (合計: _____ 名) ※アート・リサーチセンター所属者は、「ARC 所属教員欄」に○印を付してください	
氏名(ふりがな)	所属機関・職名
Alfred Haft (アルフレッド・ハフト)	大英博物館・アジア部日本セクション学芸員
Roger Keys (ロジャー・キーズ)	浮世絵研究家
赤間 亮(あかま・りょう)	立命館大学・教授
松葉 涼子(まつば・りょうこ)	ロンドン大学 SOAS・リサーチアシスタント
Stephanie Santschi (ステファニー・サンチ)	大英博物館・北斎プロジェクトリサーチアシスタント
James Ulak (ジェームス・ユラック)	米国スミソニアン機構フィリアーアンドサックラーギャラリー・専門学芸員
Frank Feltens (フランク・フェルテンス)	米国スミソニアン機構フィリアーアンドサックラーギャラリー・専門学芸員
Alfred Haft (アルフレッド・ハフト)	大英博物館・アジア部日本セクション学芸員
Roger Keys (ロジャー・キーズ)	浮世絵研究家

4. 研究課題の概要(300 字程度) (申請書から変更がある場合は、変更点が分かるように明記してください)
<p>大英博物館が 1753 年に創立して以来 260 年以上の間、さまざまな形でコレクションの整理が行われてきたが、関連する博物館アーカイブスについては、所蔵品そのものとも非常に深く関連するものでありながら、その整理と公開については立ち後れており、情報公開するための博物館独自のシステムは構築されていない。2017 年度、拠点での研究をすすめるにあたって、2015 年博物館に寄贈されたロジャー・キーズ氏の北斎一枚摺のカタログ・レゾネ集中的に整理し、ARC のデータベースシステムを使って公開するまでに至った。今年度はさらに利用者が使いやすくなるようにユーザーインターフェースの改善していくこと、あわせてシステムで蓄積された情報を他の美術館博物館、さらには国内外の研究者とどのように共有していくかを検討し、蓄積された情報を使った研究成果の具体例を発表、公開することを目的として国際シンポジウムを開催する。</p>

5. 研究成果の概要 (この項は、本センターのホームページ・紀要等で公開することがあります)

本研究成果に関する内容の詳細についてはホームページ (<https://www.latehokusai.org/catalogue-link-and-disclaimer>) で確認できる。

2018年4月にメトロポリタン美術館、米国スミソニアン機構フィリアー・アンド・サックラー美術館においてワークショップを実施した。メトロポリタン美術館では、館蔵品の『富嶽三十六景』すべてと『諸国瀧廻り』の複製も含めたすべての作品を実際に閲覧し、ロジャー・キーズカタログにある記述と齟齬がないかについて実施調査を行った。また、メトロポリタン美術館のサイエンティスト、マルコ・レオナと大英博物館のサイエンティスト、カプシン・コレンバーグもワークショップに参加し、近年おこなわれている絵の具の化学分析による『富嶽三十六景』の初版と後版の比較についての発表を行った。フィリアー・アンド・サックラー美術館では現在までの研究成果を報告するとともに、館蔵品の肉筆作品における真贋についての実施調査をおこなった。

2019年2月には東京国立博物館でのワークショップおよび国立国会図書館、内閣府が主催する「産学官フォーラム」においての口頭発表を実施して、現在までに整理したキーズの一枚摺カタログレゾネの公開状況、研究利用の可能性、そして大英博物館のセマンティックウェブ構築プロジェクト ResearchSpace との共同研究の状況などを報告している。具体的な成果としては、前年度にひきつづき、すでにデジタル化されている北斎一枚摺カタログレゾネのテキスト翻刻を2800件(3942件中)終了させた。また、ResearchSpace ではロジャーデータを取り込み、セマンティック web 検索、入力ができるサイトを構築しており、そのインターフェイスについての相談を綿密にすすめた。

6. 研究業績

(1) 著書

・「Hokusai: Beyond the Great Wave」、共著 Timothy Clark 編 (他著者、Angus Lockyer, Alfred Haft, Roger Keys and Matsuba Ryoko)、2017年5月、Thames & Hudson、352頁

⇒2018年度中、4,000 Chinese and 3,000 Italian editions of book, 24,000 copies of English edition printed to date.

(2) 論文

・Capucine F. Korenberg, Lucia Pereira-Pardo, Peter J. McElhinney and Joanne Dyer, 「Developing a systematic approach to determine the sequence of impressions of Japanese woodblock prints: the case of Hokusai's 'Red Fuji」
2019年7月刊行予定、Heritage Science 20197:9.

(3) 研究発表等

・Stephanie Santschi, 「Challenges of building a multilingual web resource on Hokusai」、2018年8月、SIGKDD Conference on Knowledge Discovery and Data Mining, London.

・Stephanie Santschi, 「Challenges of building a multilingual web resource on Hokusai」、2018年9月、EAJRS conference, Kaunas, Lithuania.

・Timothy Clark, 「Arts & Humanities Research Council (AHRC) の支援による国際 研究プロジェクト 北斎の晩年 — 思想、技術、社会」、2019年2月、産学官フォーラム、東京。

・Stephanie Santschi, 「『北斎の晩年』の知識ベースに関する進捗報告」、2019年2月、産学官フォーラム、東京。

(4) 主催したシンポジウム・研究会等

・ワークショップ「Late Hokusai: thought, technique, society」、2019年2月26日、35人、於東京国立博物館。